

【鉄道廃線跡を訪ねる】

今福線研究分科会 河野 靖彦

1. はじめに

今福線研究の初年度は資料調査と現地調査を実施し、鉄道遺構となった建造物の現状を把握する研究を行った。その中で、今福線を地域資源として活用し、なおかつ地域の財産として維持管理を行いながら保存していくことが重要であることを認識した。

2年目の今年は、今福線を地域活性化に活用する方策を考える。ただし、一朝一夕に妙案が見つかるわけも無い。そこで、他地域での活用例について調べることにした。全国には、鉄道廃線跡や未成線を利用して地域を活性化した前例が数多くある。それらを訪ね歩き、今福線に応用できるか研究することにした。

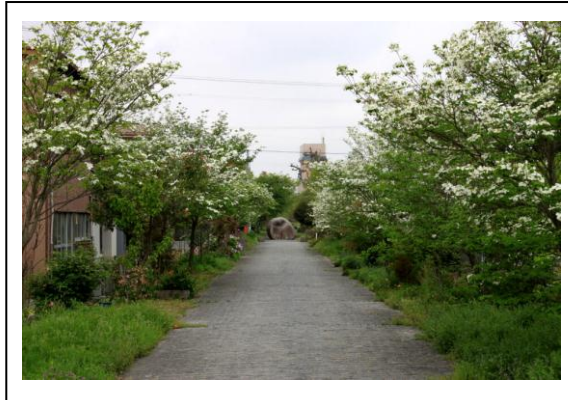
2. 鉄道廃線跡を訪ねる

① 国鉄倉吉線

国鉄倉吉線は、山陰本線の倉吉から旧関金町の山守までの20kmを連絡する鉄道で、将来は姫新線の中国勝山とを結ぶ陰陽連絡線の一部として建設された。明治45年に倉吉市街の打吹と上井（現倉吉駅）間が倉吉軽便線として開通、昭和16年に関金まで延伸開業、昭和33年に山守まで延長された。しかし、盲腸線であったことも影響して、並行するバス路線との集客競争に敗れ、昭和60年3月31日をもって廃線となった。

・廃線跡の活用

1. 上灘駅付近から打吹駅付近は、「緑の彫刻プロムナード」という遊歩道兼サイクリングロードとして整備され、上灘駅跡には駅舎風のトイレが、打吹駅跡付近には市が運営する倉吉線鉄道記念館が建設されている。
2. 西倉吉駅跡は、旧ホームを生かした公園に整備され、ダミーのレールが敷設されている。
3. 西倉吉駅付近から上小鴨駅跡までの5kmは、「花と緑のフラワーロード」という名称で県がサイクリングロードとして整備を進め、両駅跡には市の管理するトイレが建設されている。
4. 関金駅付近は小公園と駐車場になり、当時の面影は全く見られない。
5. 泰久寺駅跡には駅名標のレプリカが整備され、近くには昭和16年9月竣工の銘板が残る泰久寺橋梁が現存している。駅跡は廃線後荒れ放題だったが、近年は地元ボランティアにより草刈などの整備が行われている。
6. 泰久寺～山守間にある山守トンネルは、坑口が閉鎖されているが、イベント時には見学ができる。
7. 第2小鴨川橋梁の橋台近くには関金町資料館があり、倉吉線の資料が展示されている。
8. 資料館前から山守駅跡までは路盤跡が舗装され、サイクリング道路となっている。山守駅跡には、ホームや駅舎は現存しないが、「工」マークの境界杭が残されている。
9. 倉吉市観光協会主催の「廃線跡トレッキング」が開催されている。(HPで募集、要予約)



緑の彫刻プロムナード



泰久寺駅跡

② 国鉄伯備旧線

国鉄伯備南線井倉～新見間は、大正 15 年 1 月に工事着手され、昭和 3 年 3 月に竣工した。昭和 50 年代後半、複線化に伴って路線が変更され、旧線となった井倉～石蟹間の一部区間がサイクリングロードとして活用されている。

・廃線跡の活用

1. 路盤跡は全長 2.75km に渡ってアスファルト舗装され、自転車歩行者用道路として活用、地域住民の生活道路として許可車は通行可能となっている。
2. 管理主体は岡山県だと思われる。舗装の状況、草刈の状況、立入り防止柵の状況から、定期的な維持管理が実施されていると思われる。
3. サイクリングロードと曲線鉄橋 2 橋が土木学会の「近代土木遺産」に認定されている。
4. HP などへの情報提供はなし。道路や近隣の駅にも案内看板の類はなし。



足見陸橋



第八高梁川橋梁

③ 国鉄宮原線

国鉄宮原線は、久大本線の恵良～肥後小国間を結ぶ 26.6km を結ぶ鉄道で、佐賀から福岡県瀬高、熊本県菊池を経て大分県豊後森に至る予定線の一部として建設された。昭和 12 年に恵良～宝泉寺間が部分開通、第 2 次世界大戦の影響で戦時中は運休したが戦後に復活、昭和 29 年に肥後小国駅まで延伸開業している。

農林資源開発や観光路線として期待されたが、盲腸線であることや、人口の少ない高原地域を縦断する路線であることから採算性が低く、昭和 59 年 12 月 1 日に廃止となった。

・ 廃線跡の活用

1. 宝泉寺～北里間は、一部道路として供用されている。この区間には 12 のトンネル、5 つのコンクリートアーチ橋が存在するが、道路として使用されているトンネル以外は立入が禁止されている。
2. 北里～肥後小国間は、ハイキングコースとして整備されている。この区間には、2 つのトンネル、2 つのコンクリートアーチ橋が存在し、ハイキングコースのアクセントとなっている。
3. 竹筋コンクリートと噂されるコンクリートアーチ橋は、地元の努力もあって平成 16 年に国の登録有形文化財に登録された。
4. ハイキングコースの終点である北里駅は、ホームが保存され上屋とベンチが新設されている。
5. 小国町役場により、ハイキングコースの案内マップが作られ、道の駅で案内されている。(マップは熊本県地域振興総合補助金事業の事業支援を得て、九州大学大学院で制作された。)
6. 小国町役場の HP でハイキングコースが紹介され、マップも HP 上からダウンロード可能となっている。



甲野川橋梁



北里駅跡

④ 国鉄高千穂線未成区間（高森トンネル）

国鉄高千穂線未成区間は、宮崎県側の高千穂線（旧日ノ影線）と熊本県側の高森線を結び九州を横断する計画であった。

昭和 48 年 12 月に高森トンネル（全長 6480m）の工事に着手したが、昭和 50 年 2 月、約 2000m 掘り進んだ地点で毎分 36t もの異常出水が発生。町内の水源が枯渇する事態となり工事は一時中断された。昭和 55 年、国鉄分割民営化のあおりを受けて計画は中止となり、トンネルは未完成のまま閉鎖された。

その後、平成 6 年に閉鎖されていたトンネルとその周辺を親水公園として整備、全長 2055m のトンネルは、その内 550m を「高森湧水トンネル公園」として一般公開している。

・活用の状況

1. トンネルとその周辺は「高森湧水公園」として整備され、トンネル内は有料で一般に公開されている。(入場料 中学生以上 300 円、小学生 100 円、小学生以下無料)
2. 7月には「七夕まつり」、12月には「クリスマスファンタジー」などのイベントが企画されている。
3. トンネル内の湧水地点には「水神様」が祀られていて、湧水は飲用可能である。湧水地点の近くには、「ウォーターパール」と呼ばれる仕掛け噴水も設置され、見どころの一つとなっている。
4. トンネル上部には、資料館である「湧水館」が設置され、トンネル建設の歴史を学ぶことができる。
5. この施設は、高森町観光協会の HP で紹介されている。



高森トンネル



トンネル内の様子

3. 今福線への応用

4箇所 の 廃線跡 (未成線を含む) を訪ねてみて、今福線に 応用可能なものを以下に列記する。

① 施設の整備と管理体制の強化。

- ・遺構の把握と構造物健全度の評価。
- ・地域住民との交流により、遺構管理について認識の共有。
- ・行政との連携による遺構管理の実施。
- ・施設公開時の安全性確保の提案 (橋梁高欄等)

② 情報の整理と提供

- ・「今福線遺構めぐりマップ」の作成。
- ・インターネットを利用した情報の提供。
- ・道の駅や周辺観光施設、高速道路 PA に「今福線遺構巡りマップ」の配布。

今回廃線跡を訪ねてみて、遺構を活用し地域を活性化するためには、地元住民や自治体が一体となって活動することが重要であることを認識した。一方で、今福線は土木学会の選奨土木遺産に認定されているものの、地元浜田市のホームページにすら登場しない状態である。今後は分科会として、地元と協力しながら遺構の保存や PR 活動を進めるほか、自治体との連携についても模索していきたいと考えている。

以上